

『 第 8 期 中央区自立支援協議会 』

医療的ケア児等支援連携部会

報 告 書

令和 8 (2026) 年 2 月

医療的ケア児等支援連携部会 委員名簿

	氏名	所属団体
部会長	草川 功	社会保険診療報酬支払基金東京審査委員会事務局
副部会長	大戸 秀恭	中央区医師会 理事（勝どき小児クリニック）
委員	吉田 明記	区民公募
委員	田中 翼	日本橋医師会 理事（人形町こどもクリニック）
委員	小野 絵理子	中央区医師会 訪問看護ステーションあかし
委員	有馬 夕紀	訪問看護ステーション ナースであんしん
委員	鈴木 美紀	東京都立東部療育センター 地域療育支援室担当係長
委員	<u>須永 佐和子</u>	東京都立墨東特別支援学校特別支援教育コーディネーター
委員	<u>伊藤 真吾</u>	月島第二小学校長
委員	平松 功治	銀座中学校長
委員	<u>田原 雅代</u>	月島幼稚園長
委員	<u>大久保 稔</u> (R7.9.6~)	福祉保健部障害者福祉課長（福祉保健部長事務取扱）
	<u>岸 敏昭</u> (R7.4.1~R7.9.5)	福祉保健部障害者福祉課長
委員	<u>清水 真紀</u>	教育委員会学務課長
委員	村上 隆史	教育委員会教育センター長
委員	金広 路子	福祉保健部保育課長
委員	武田 知子	福祉保健部健康推進課長

計 17名（うち下線の6名は変更）

【部会のテーマ／検討内容】

『日常生活を営むために医療的ケアが必要な障害児(者)が、その心身に応じた適切な支援を受けられるよう、対象者数やニーズなどの情報の共有化を図り、関係機関が連携を行うための方策等について』

【開催日時／議題】

年度	回	日時	場所	議題
令和6年度	1	7月26日(金) 18:30～20:00	中央区立 子ども発達 支援センター内 会議室	(1) 今年度のスケジュール (2) 区内在住の医療的ケア児等の把握状況 および医療的ケア児コーディネーター の配置状況の共有 (3) 令和6年度医療的ケア児に関わる職員向け 講演会について (4) ミニレクチャー「小・中学校等における 医療的ケア実施に関する直近の動向」 (5) 各部署からの報告事項等
	2	12月13日(金) 18:30～20:00	中央区立 子ども発達 支援センター内 会議室	(1) 中央区障害者計画などの令和5年度実績に ついて (2) 中央区障害者(児)実態調査について (3) 区内在住の医療的ケア児等の共有に関する こと (4) 11月5日開催 医療的ケア児に関わる職員 向け講演会 (5) 各部署からの報告事項等
令和7年度	3	8月8日(金) 18:30～20:00	中央区立 子ども発達 支援センター内 会議室	(1) 今年度のスケジュール (2) 東京都医療的ケア児支援センターからの 実績報告 (3) 区内在住の医療的ケア児等の把握状況 および医療的ケア児コーディネーターの 配置状況の共有 (4) 各部署からの報告事項等 (5) 第8期中央区障害福祉計画・第4期中央区 障害児福祉計画に係る実態調査について
	4	12月12日(金) 18:30～20:00	中央区立 子ども発達 支援センター内 会議室	(1) 地域のグループホームの医療連携体制の 構築について (2) 12月2日開催 医療的ケア児に関わる職員 向け講演会について (3) 区内在住の医療的ケア児等の共有に関する こと (4) 各部署からの報告事項等 (5) 第8期中央区障害福祉計画・第4期中央区 障害児福祉計画に係る実態調査について

【令和7年度中間報告】

第3回（令和7年8月8日開催）

議題（1）今年度のスケジュール

- ・協働体制の強化について、医療的ケア児の情報の更新・把握をいかに迅速かつ円滑に行うかというところが課題となっている。医療的ケア児コーディネーターの活用も含めて、実効性のある情報集約の仕組みづくり、保護者との個人情報の適正な取り扱いや運用も引き続き検討していく必要がある。
- ・職員の理解の促進や地域への啓発につなげるため、医療的ケア児に関わる職員向け講演会や地域に理解が広がるような企画等も検討していきたい。

議題（2）東京都医療的ケア児支援センターからの実績報告

- ・昨年度の相談件数は258件（個別支援125件、地域支援113件）、今年度7月までの相談件数は116件となっている。
- ・当センターは、相談支援専門員や医療的ケア児コーディネーターが各区の事業等について情報交換できる場を設定する等、支援者同士をつなげる役割を担っている。また、家族や医療的ケア児本人がどこに相談していいかわからない場合や相談に行ってもたらい回しになるといった状況にならないようにワンストップで受け止める役割も担っている。

議題（3）区内在住の医療的ケア児等の状況把握および医療的ケア児コーディネーターの配置状況の共有

- ・令和7年7月末現在、中央区では医療的ケアを必要とする65歳未満の方が55名把握されている。前年度と比べて増加傾向にあり、また、新生児医療技術の向上が理由と思われ、全国的にも増加傾向にある。
- ・医療的ケア児全体における小中高生の割合が増えてきており、学校における医療的ケア児の受け入れ体制の整備や放課後の預け先等が課題となっている。
- ・今後、歩ける医療的ケア児が増えてくることが予想されている。
- ・子ども発達支援センターの医療的ケア児コーディネーターは、常勤職員が区全体の医療的ケア児の情報を集約し、委託先の山鳥の会の職員が実際の相談支援にあたるという役割分担で業務にあたっている。

議題（4）各部署からの報告事項等

- ・事務局から、7月8日開催 令和7年度区市町村における医療的ケア児等支援担当者連絡会（東京都福祉局主催）の報告。

議題（5）第8期中央区障害福祉計画・第4期障害児福祉計画に係る実態調査について

- ・子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査を中心に説明。
→9月上旬に調査票を配布し、来年3月頃に報告書として取りまとめる予定。

〈主な意見〉

- *Google フォームを使って実施することも検討したらどうか。
- *この調査を利用して障害福祉計画を策定していると思うので、そのフィードバックも個別に丁寧に対応してほしい。

第4回（令和7年12月12日開催）

議題（1）地域のグループホームの医療連携体制の構築について

- ・医療連携型グループホーム（リヴェール月島リーナホーム）運営法人である社会福祉法人山鳥の会より説明。
→今までの主治医や訪問看護師との連携がグループホーム入居により途切れてしまうこと、栄養士が不在なので自宅で生活していた時と同じような食事の提供が難しいことが課題となっている。

〈主な意見〉

- *保護者の不在の中で、コミュニケーションが取れない利用者とのやり取りが難しい。家族のニーズにどのような形で訪問看護が介入していくのか、世話人等と連携して対応していく必要がある。
- *肢体不自由の特別支援学校では、嚥下調整食を提供するノウハウは持っている。医療的ケア児の増加に伴い、学校でも、嚥下調整食をシリンジ注入してほしいとの保護者からの要望を受け、墨東特別支援学校では家族の思いを受け止めながら東京都のモデル事業としてスタートしたところである。現場の課題としては、調理室のキャパシティ不足、アレルギー対応等がある。
- *かかりつけの医療機関との連携体制はキープしておいた方が入所者にも安心である。

議題（2）12月2日開催 医療的ケア児に関わる職員向け講演会（中央区立子ども発達支援センター主催）【講師：聖路加国際病院 小児科 副医長 梅原直先生】について

- ・事務局から、別紙1のとおり報告。

〈主な意見〉

- *実際の現場の方は知りたいことがすごく多いので、こういった研修会は是非続けていってほしいと思う。

なお、参考に12月9日開催 医療的ケア児地域・家族交流会（都立小児総合医療センター・東京都医療的ケア児支援センター多摩主催）についても、別紙2の参加報告を配布した。

議題（３）区内在住の医療的ケア児等の共有に関すること

- ・令和７年１１月末現在、中央区では医療的ケアを必要とする６５歳未満の方が５７名把握されている。前回の部会から２名増えている（新規３名増、１名転出減）。

〈主な意見〉

- *以前と比べて細かく情報が集まるようになってきており、安定した情報収集になっていると思う。

議題（４）各部署からの報告事項等

- ・委員から医療的ケア児や早産児、多胎児を授かったご家族に対して、孤独にさせないよう、アウトリーチ型の産後ケア事業を９月から開始したとの事業案内があった。

議題（５）第８期中央区障害福祉計画・第４期中央区障害児福祉計画に係る実態調査について

- ・配布数が１２３４人、有効回収数は５８３人となっており、４７．２％の回収率となっている。
- ・今回は速報値として報告するが、今後はこの調査結果にクロス集計等を加えて分析を行って成果物として取りまとめる予定。

〈主な意見〉

- *医療的ケア児の放課後の居場所が非常に少ないと感じる。さらにヒアリング等をして検討を重ねてほしい。

以上